

取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、
ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。



高シールド

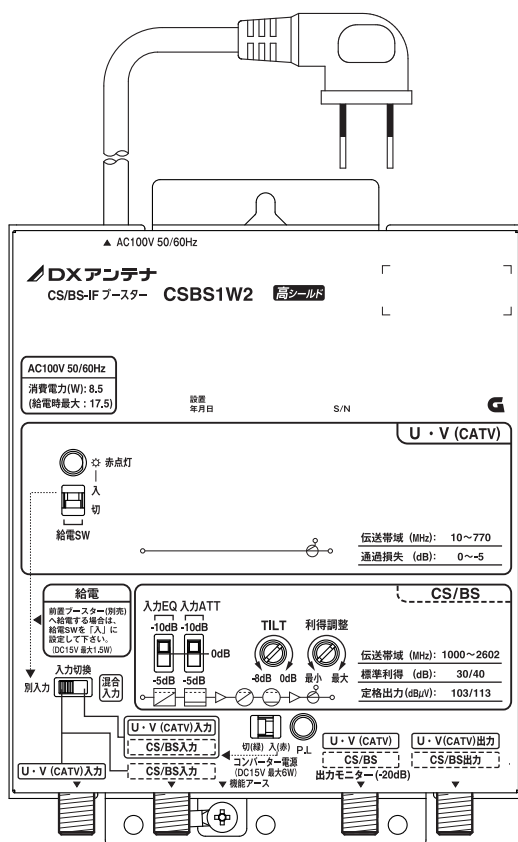
テレビ共同受信機器 CS/BS-IFブースター

CS/BS-IF1000~2602MHz増幅用 電源内蔵形 屋内用

CSBS1W2 (BL型式 CS・BS-1W)



一般財団法人 ベターリビングが優良住宅部品認定制度によって、品質、性能、アフターサービスなどに優れた住宅部品を厳重な審査に基づき認定した住宅部品です。さらに保証責任保険と賠償責任保険が制度化されていますので、安心してご利用できます。



もくじ

取扱説明書	ページ
お取扱い上のご注意	1
安全上のご注意	2
お取扱の前に	3
メンテナンス	3
保証について	3
性能規格	3
各部の名称	4
施工説明書	
取付方法	5
スイッチの操作	5~6
調整方法	7
接栓と同軸ケーブルの加工方法	8
お問い合わせ	8

取扱い上のご注意

- テレビ受信工事には技術と経験が必要です。お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。
- 屋外に設置する場合は、必ず防水・防雨ならびに放熱処理を施した収容ボックスなどに収容してください。
- この製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがあります。途中には電流通過形機器以外は絶対に挿入しないでください。また、電流通過形機器を挿入する場合は通電端子をよく確かめてお使いください。もし、電流非通過形機器を挿入しますと、回路や同軸ケーブルがショートして、火災や感電の原因となります。
- 取り付けに用いる以外のネジを回したり、製品本体のカバーを開けて回路部品に手を触れたりしないでください。
- 電源の供給は、すべての同軸ケーブルが完全に接続されていることを確認した後に行ってください。
- スイッチを切り換える場合、切換操作を数回行い、スイッチ接点部の活性化(クリーニング)をしてください。長期間操作をしないと接点部分に酸化膜が発生し、接触不良の原因となります。
- 使用時、異常が生じた場合は、ただちに電源の供給を止め、原因を確かめてください。
- 放熱性に富むアルミ合金製放熱板を採用していますので、放熱効果により筐体が熱を持ちますが異常ではありません。

安全上のご注意

お使いになる方や他の人々への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。本文中に使われている図記号の意味は、次のとおりです。

	一般的な注意事項		機器の分解禁止		水ぬれ禁止		接触禁止		一般的な禁止事項		指示を守る
--	----------	---	---------	---	-------	---	------	--	----------	---	-------

警告

この内容を見逃して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

表示された電源電圧以外の電圧で使わない
火災や感電の原因となります。

製品内部に水などが入った場合や、落として破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜く
そのまま使用すると火災や感電の原因となります。お買い上げの販売店・工事店にご連絡ください。

以下の場所に設置しない

落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。
・強度の弱い場所
・不安定な場所
・ぐらついたり振動したりする場所
・傾いた場所

以下の環境に設置しない

変形や火災、感電など事故の原因となり、製品寿命が短くなることがあります。
・直射日光の当たる場所
・放熱機能のないボックス内
・屋外・風呂場・洗い場・水がかかる場所
・湿気やほこりの多い場所
・調理台や加湿器のそばなど高温になる場所
・油煙や湯気があたる場所

電源コードを傷つけたり、破損させたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしない
また、重いものをのせたり、加熱したり(熱器具に近づける)、引っ張ったりしない

火災や感電の原因となります。電源コードが傷んだとき(心線の露出、断線など)はお買い上げの販売店・工事店にご相談ください。

通風孔をふさいだり、内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだりしない

火災や感電の原因となります。



禁止



抜き取り指示



禁止



禁止



水ぬれ禁止



禁止



禁止

電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因となります。



抜き取り指示

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となります。



接触禁止

雷が鳴り出したら、製品には触れない
感電の原因となります。



接触禁止

煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用しない

火災や感電の原因となります。すぐに、ブースター電源部の電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店・工事店に修理をご相談ください。



抜き取り指示

接地する

引っ張り強さ 0.39N 以上の金属線、または直径 1.6 mm の軟導線で接地してください。接地しないと避雷やシールドの効果が下がり、感電や故障の原因となります。



接地指示

取り付けネジや接栓の締め付け力(トルク)に指定がある場合は、その力(トルク)で締め付け、固定する
落ちたり、破損したりして、けがの原因となります。



締め付け指示

製品を分解・改造しない

感電やけがの原因となります。また、製品の性能が維持できなくなり、故障の原因となります。



分解禁止

電源プラグは、コンセントの根元までしっかりと差し込む

ゴミやほこりが付着しているときは拭き取ってください。火災の原因となります。



禁止

注意

この内容を見逃して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

AMラジオから1.5m以上離して使用する
AMラジオの近くで使用するとラジオ音声にノイズが入る場合があります。



注意

お取扱いの前に

- ブースターを落としたり、ぶつけたりしないよう注意してください。
- 電源を供給する前に機能アースを必ず接地してください。なお、機能アースは安全アースではありません。
- 同軸ケーブルは、S-5C-FBまたはS-7C-FB相当以上の性能を有するものをご使用ください。
- 同軸ケーブルに使用する接栓は、同軸ケーブルに適したC15形のピン付き接栓を使用してください。
- 同軸ケーブルの接栓取り付けは、その同軸ケーブル専用の接栓を加工してご使用ください(P.8「接栓と同軸ケーブルの加工方法を参照」)。特殊な加工をしたものを使用すると特性の悪化や機器の破損につながります。
- 入出力端子へのF形接栓の接続は、接続ナットを1～2N・mで締め付けてください(2N・mを越えると破損する場合があります)。
- 正常な動作を確認するために、定期的な点検を実施してください。

メンテナンス

いつまでも美しいテレビ映像をお楽しみいただくために、1年に1回は専門業者に保守点検を依頼してください。

※この製品を処分するときは、産業廃棄物として処理してください。

保証について

- この製品の保証期間は、お引き渡しの日から2年間です。保証期間内に取扱説明書、施工説明書記載事項に従った正常な使用状態で故障した場合など、アフターサービスについてご不明な場合は、お買い求めの販売店、当社営業所またはカスタマーセンターにお問い合わせください。
- ただし、下記の場合は保証期間内でも有償修理となります。
 - ①住宅、事務所、学校、病院、ホテルまたは旅館以外で利用した場合の不具合。
 - ②ユーザーが適切な使用、維持管理を行わなかったことに起因する不具合。
 - ③メーカーが定める施工説明書などを逸脱した施工に起因する不具合。
 - ④メーカーが認めた者以外の者による住宅部品の設置後の移動・分解などに起因する不具合。
 - ⑤建築躯体の変形など住宅部品本体以外の不具合に起因する当該住宅部品の不具合、塗装の色あせなどの経年変化または使用に伴う摩耗などにより生じる外観上の現象。
 - ⑥海岸付近、温泉地などの地域における腐食性の空気環境に起因する不具合。
 - ⑦ねずみ、昆虫などの動物の行為に起因する不具合。
 - ⑧火災・爆発事故、落雷・地震・噴火・洪水・津波など天変地異または戦争・暴動等破壊行為による不具合。
 - ⑨消耗部品の消耗に起因する不具合。
 - ⑩電気の供給トラブルなどに起因する不具合。

性能規格

品名	CS/BS-IFブースター	
型番 (BL型式)	CSBS1W2(CS-BS-1W)	
周波数帯域 (MHz)	10～770	1000～2602
最大伝送容量 (ch)	—	BS12、CS24(デジタル)
標準入力レベル (dBμV)	—	73
標準利得 (dB)	0～-5	30/40以上(1000/2602MHz)
利得調整範囲 (注1) (dB)	—	0～-10以上(連続可変)
入力A T T (注1) (dB)	—	0、-5/-10(注3)
入力E Q (dB)	—	0、-5/-10(注4)
T I L T (注1) (dB)	—	0～-8以上(連続可変)(注4)
定格出力レベル (dBμV)	—	103/113(1000/2602MHz)
伝送帯域内周波数特性 (注1) (dB)	—	任意の34.5MHzで±1.0以内、 チルト直線において全帯域で±2.5以内
雑音指数 (注2) (dB)	—	10以下
電圧定在波比 (注1)	2.5以下	
相互変調 (IM2) (注1) (dB)	-31以下	
相互変調 (IM3) (注1) (dB)	-63以下	
利得安定度 (注1) (dB)	±2.5以内	±3.0以内
ハム変調 (注1) (dB)	-60以下	
入出力インピーダンス (Ω)	75(F形)	
出力モニター (dB)	-20	
耐衝撃波性能 (耐雷性)	入出力端子 電源端子 ±20kV(1.2/50μs)	
コンバータ供給電源	DC15V 6W	
電源 (V)	AC100(50/60Hz)	
消費電力 (W)	8.5 (20VA)、コンバータ用電源6W送出時16(33.5VA)	
使用温度範囲 (℃)	-10～+40	
外形寸法 (mm)	177(H)×136(W)×62.5(D)	
質量 (kg)	0.9	

(注1)利得標準時 (注2)利得最大時 (注3)スイッチ切替式 (注4)2602MHz基準、1000MHz値
仕様は改良により、予告なく変更させていただくことがありますのでご了承ください。

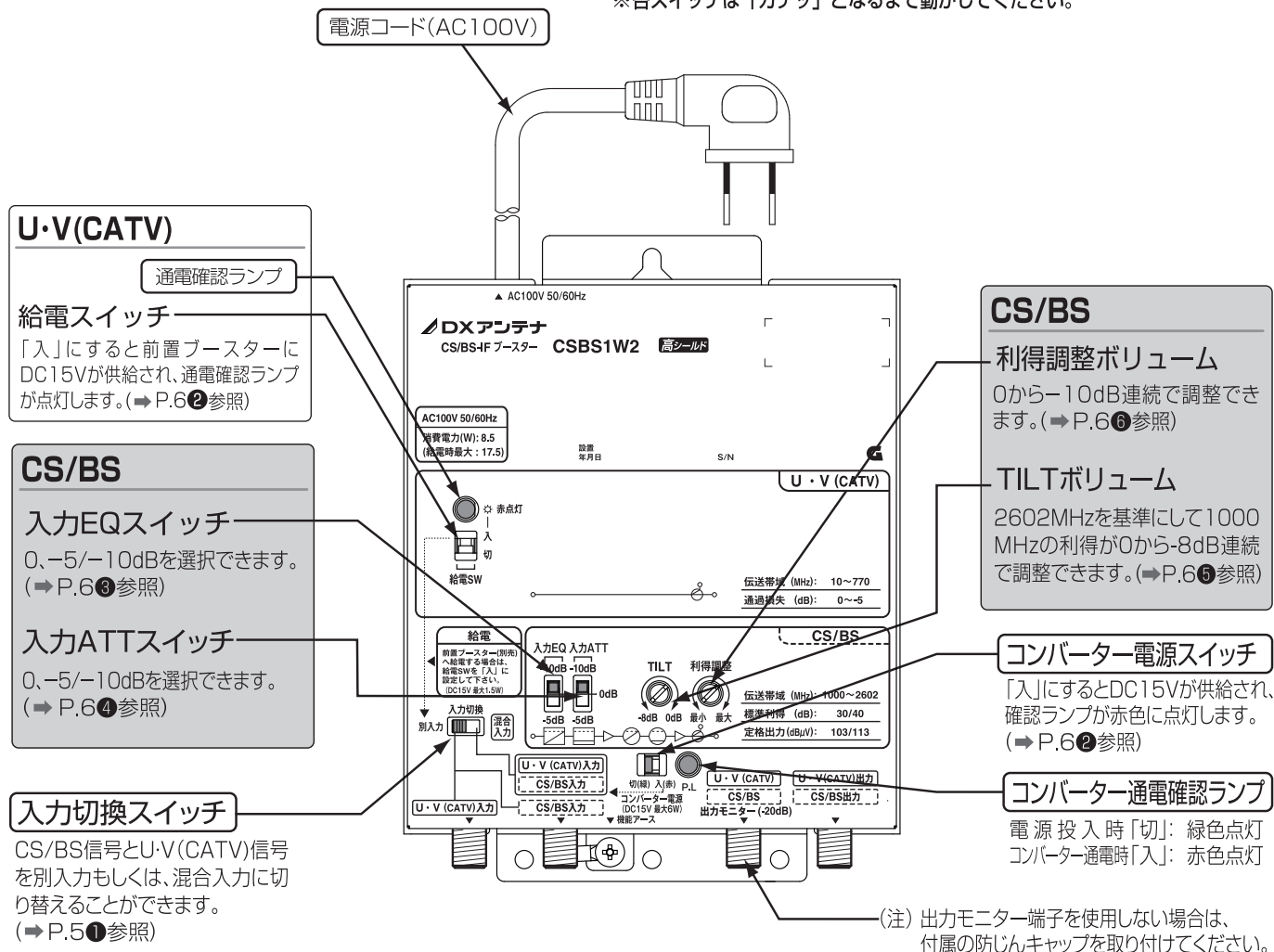
高シールド 高シールドマークは、携帯電話や各種無線サービスなどとの電波干渉を抑制するため、厳しい社内基準を基にシールド性を高めた製品であることを示します。

各部の名称

※下図スイッチ位置は出荷時の設定です。ボリューム位置は出荷時は最小側です。

※各スイッチおよびボリュームは調整用小形ドライバーで軽く操作してください。

※各スイッチは「カチッ」となるまで動かしてください。



●入力切替スイッチ: 別入力の場合

U・V(CATV)入力端子

前置ブースター用電源出力端子、DC15Vを重畳して給電できます。

●入力切替スイッチ: 混合入力の場合

この端子は使用しません。

●入力切替スイッチ: 別入力の場合※

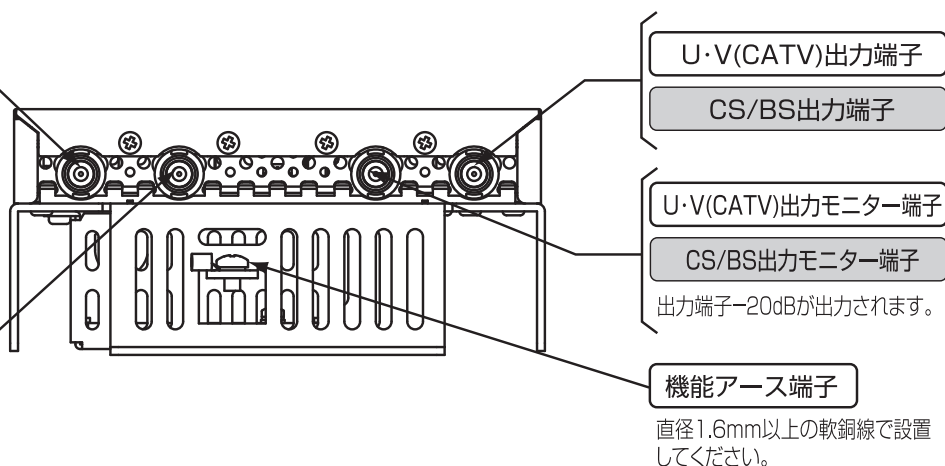
CS/BS入力端子

●入力切替スイッチ: 混合入力の場合※

U・V(CATV)入力端子

CS/BS入力端子

※コンバーター用電源出力端子、DC15Vを重畳して給電できます。



施工説明書

ご使用前にこの施工説明書をよく読み、正しく施工してください。また施工前に製品の外観に異常がないか、付属品が正しく入っているか確認してください。

- 当社の定める施工説明書を逸脱しない方法で据付工事を行い不具合(瑕疵)が生じ、施工者が無償修理や損害賠償を行なった場合、BLマーク証紙の貼付(又は刻印等)がされている部品については、一般財団法人 ベターリビングのBL保険制度に基づき保険金が支給されます。
- BLマーク証紙の貼付(又は刻印等)がされている部品については、万一、当社又は設置工事施工者による瑕疵保障責任等が行えない場合、これに代わる措置が同財団から受けられます。
- BL保険制度については、同財団のホームページ(<http://www.cbl.or.jp/>)をご覧ください。
なお、BL保険制度に関する質問は、同財団(Tel 03-5211-0680)でもお受け致します。

設置上のご注意

- この製品は、屋内用です。ただし、屋外で使用する場合は、下記の「取付方法」をご覧ください。
- メンテナンスの容易なところに設置し、次のようには場所に設置しないでください。
 - ◆ 屋外や水などがかかる場所 ◆ 不安定な場所 ◆ 高所など足場の悪い場所 ◆ 直射日光の当たる場所や高温になる場所
 - ◆ 有毒ガスの発生する場所 ◆ 天井や熱のこもる場所
- 機能アースを機能アース端子に設置してください。

使用部品

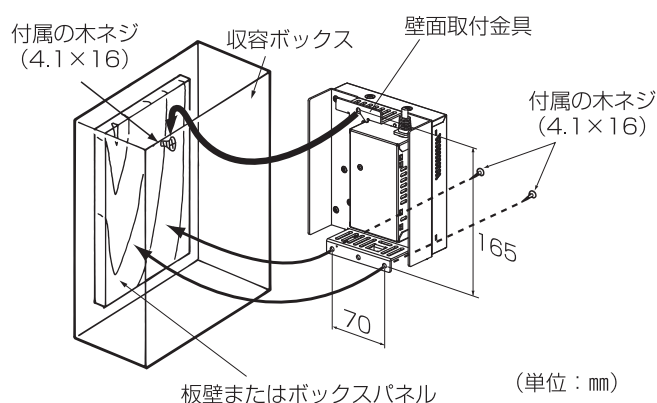
- 同軸ケーブルは、S-5C-FB、S-7C-FB相当以上の性能を有するものをご使用ください。
- 接栓は、使用する同軸ケーブルに適したC15形のF形接栓をご使用ください。
- 機能アース端子には、直径1.6mm以上の軟銅線をご使用ください。

取付方法

- 図のように板壁または放熱を施した収容ボックスのパネル板に壁面取付金具を付属の木ネジ1本で取り付け、ブースターを掛けてください。次に残りの木ネジ2本でブースターの下側を固定し、しっかりと取り付けてください。
- 収容ボックスは外形寸法500×500×140mm以上のものを使用してください。
- 入出力端子へ接続するF形接栓の加工方法は、P.8をご覧ください。

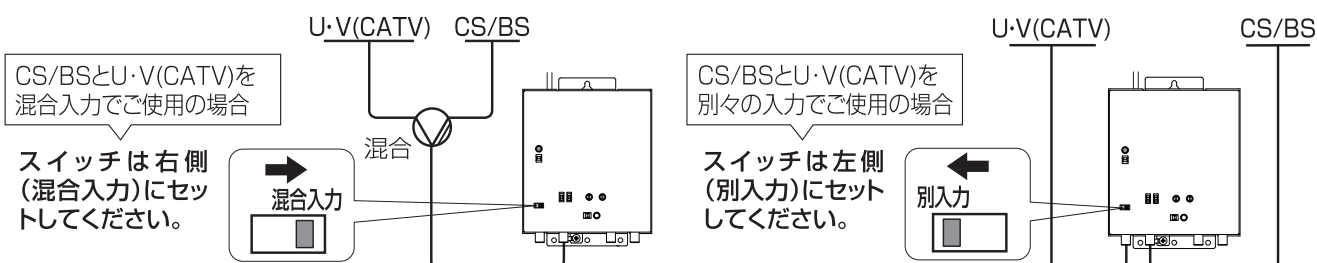
〈ご注意〉

天井や熱のこもる場所への取り付けは避けてください。また必ず入出力端子が下向きになるようにブースター本体を取り付けてください。他の方向に取り付けると放熱効果が失われ、性能が維持できなくなる場合があります。



スイッチの操作

① 入力切換スイッチの操作

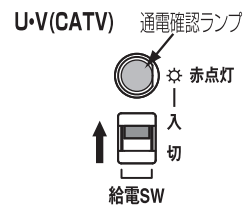


② 給電スイッチの操作

- 重畳ラインの機器は通電形を使用し、通電端子に接続してください。
- 重畳電源で動作させる以外の場合に通電しますと故障の原因となりますのでご注意ください。
- 電源の供給はケーブルの接続を確認した後に行ってください。

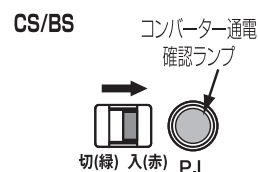
UHF前置ブースターへの給電

- 前置ブースターなどに電源(DC15V最大1.5W)を供給する場合は、給電スイッチを「入」にしてください。
通電確認ランプが赤色に点灯します(「切」にすると消灯します)。
- 前置ブースターを動作させるための重畳電源を供給できる端子はU・V(CATV)入力端子のみです。



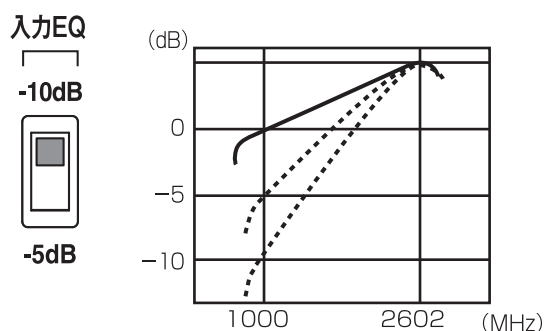
CS/BSアンテナへの給電

- コンバーター用電源(DC15V最大6W)を供給する場合は、コンバーター電源スイッチを「入」にしてください。
コンバーター通電確認ランプ(P.L)が赤色に点灯します。
- 入力端子側でショートしている場合、ランプが消え、この製品が動作しなくなり故障の原因となります。
スイッチを「切」にして、入力端子側のショート箇所を取り除いてください。
- CS/BSコンバーターを動作させるための重畳電源を供給できる端子はCS/BS入力端子のみです。



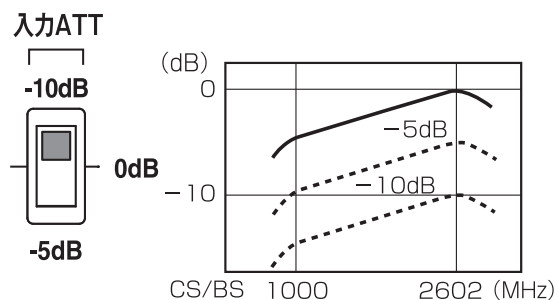
③ 入力EQスイッチの操作

- 2602MHzを基準として1000MHzの利得を5/10dB減衰させることができます。



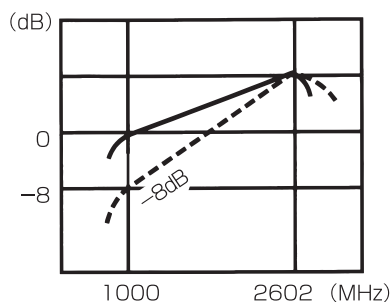
④ 入力ATTスイッチの操作

- 入力ATTスイッチを操作させることにより、入力レベルをフラットに下げることができます。
- それでもなお、入力オーバーの時は、別売りのアッテネーター(減衰器)を入力端子に挿入してください。



⑤ TILTボリュームの操作

- 2602MHzを基準にして1000MHzの利得が8dB減衰します。



⑥ 利得調整ボリュームの操作

- 後段に接続される機器が過入力にならないよう、利得調整を調整してください。
- 利得調整は「反時計回り」いっぱいに回しきった時にレベルが最小になります。

〈ご注意〉

ボリュームは調整用小形ドライバーで軽く操作してください。
強く回すとボリュームが破損する場合があります。



調整方法

〈調整の流れ〉

はじめに

手順1

入力信号レベル
の確認

手順2

入力信号レベル
の調整

手順3

信号の入力
方法選択

手順4

ケーブルの
接続

手順5

測定器の
接続

手順6

各帯域の調整

手順7

最終チェック

弊社がおすすめする基本的な調整手順は下記のとおりです。

同軸ケーブルと接栓を加工する(P.8「接栓と同軸ケーブルの加工方法」)

■手順1：入力信号レベルを確認（重要）

はじめに、スペクトラムアナライザー（電界強度測定器など）またはレベルチェッカーで各帯域の入力信号レベルを測定し、入力レベル範囲内であることを確認してください。

CS/BS※：47～83dB μ V(1000MHz/2602MHz)(●図1)

このとき、上記レベル範囲を超える場合は入力側にアッテネーター（別売）を接続し、下回る場合はアンテナの取扱説明書を見て確認/調整してください。

※レベルチェッカーなどのCS/BSコンバーター
供給用電源によりBS・110度CSアンテナに
DC15Vを供給してください。

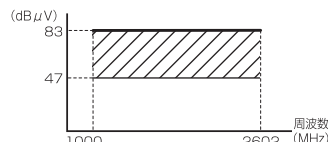


図1. 入力レベル上限値

■手順2：入力信号レベルの調整（重要）

確認した入力レベルが下記のレベルに近づくように各帯域の入力ATTスイッチおよび、入力EQスイッチ（CS/BSのみ）を設定しておいてください。

CS/BS：73dB μ V(1000MHz/2602MHz)

■手順3：信号の入力方法選択（混合入力／別入力の選択）

入力切換スイッチをお客様の使用環境に合わせて選択してください。
（ケーブルを接続する前に選択してください）

■手順4：ケーブルの接続

入力端子にアンテナ側の同軸ケーブルを接続してください。
次に出力端子に端末側の同軸ケーブルを接続（または75 Ω で終端）してください。

■手順5：測定器の接続

スペクトラムアナライザー（電界強度測定器など）またはレベルチェッカーを出力モニター端子に接続してください。なお、出力端子に同軸ケーブルが接続（または75 Ω で終端）されていないと出力モニター端子は正確なレベルを出力しません。

※より正確なレベル測定を行なう場合、出力端子に測定器を接続してください。

※測定を行う時、非常に高い出力レベルとなる場合があります。測定器故障の原因となりますので入力レンジに注意してください。

■手順6：各帯域の調整（手順1～4完了後に行なってください）

出力モニター端子は出力レベルから20dB低い値を示しますので、真の出力レベルは20dBを加えてください。

<CS/BSの調整>

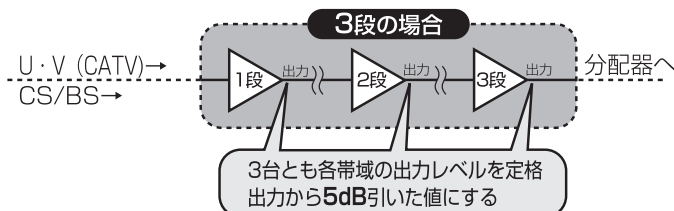
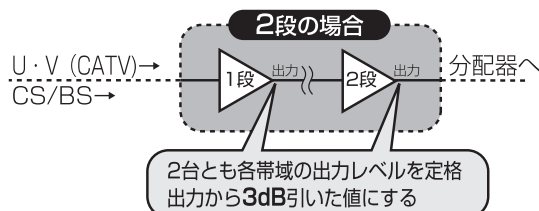
出力レベルを測定します。定格出力レベル(83/93dB μ V)以下になるように、利得調整ボリュームで調整してください。

■手順7：最終チェック

この製品の後段に接続する機器に対して過入力の場合は、各帯域の利得調整ボリュームを反時計回りに回して調整してください。また、最終的に映像が正常に映ることを確認してください。

〈参考〉カスケード（多段）接続時の運用

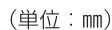
カスケード（多段）接続する場合は、各ブースターの出力レベルを以下のように設定してください。



接栓締付トルク 1~2N・m



- ## 外形寸法図



付属品

カスタマーセンター  **0120-941-542**
お昼時間も土・日・祝日もご利用ください！
PXアンテナ株式会社 本社/〒652

ホームページアドレス <http://www.dxantenna.co.jp/>

(1404)